

令和2年度 千歳市市民評価会議議事録

会議名	市民評価会議（第2回）		
日時	令和2年6月16日（火）14：00～17：00	場所	市役所本庁舎2階庁議室
出席者	委員：7名、アドバイザー：1名、事務局：3名		

評価対象 施策	（1）地域子育て支援の充実 （2）学習機会の充実		
会議概要	2施策について、施策評価表に基づき事業担当課が説明を行った後、評価委員が事業担当課にヒアリングを実施し、評価及び評価結果に対する議論を行った。		

ヒアリング・評価内容

<p>（1）地域子育て支援の充実 ヒアリング</p> <p>【委員A】 成果指標「地域子育て支援センターにおける来館・電話・メール等による子育て相談件数」の数値について、「H27 現状値」と「実績（見込）値」が大きくかけ離れている理由を確認したい。</p> <p>【説明者】 平成26年度から様々な取り組みを進めたことにより、大幅に相談件数が大きく伸びた。</p> <p>【委員A】 ここ数年間の相談件数の推移を見ると、平成29年度をピークに少しずつ減少している。その点をどう考えているか。</p> <p>【説明者】 働いているお母さんが増えたことと、保育所や幼稚園、ネウボラなどの相談体制が整ったことにより、分散したものと考えている。令和元年度については、新型コロナウイルス感染症の影響で2月から閉館したため、相談件数に影響したと考えている。</p> <p>【委員A】 対象のお子さんの人数に対する分析は行っているか。例えば、子供の数が減っていると件数が減る。お母さんの就業率など分析する基準があるのではないか。</p> <p>【説明者】 その様な分析は行っていない。</p> <p>【委員A】 減少した理由を分析することにより、お子さんが減っているのか、働いている方が増えているのかなどの分析ができる。推測できる数字を持つことにより裏付けができるので、行うべきだ。</p> <p>【委員B】 様々な取り組みをされており素晴らしいと感じている。 毎日ランチデーの取組について確認したい。児童館でもランチデーを行っており、お弁当は手作りのみと聞いたことがあるが、今もそうなのか。</p> <p>【説明者】 児童館は手作りに限定しているようだが、センターでは、食事を楽しむことを目的としているので、購入したもので大丈夫。</p>
--

児童館とは小学生・中学生との交流なども行っているが、その時にも手作りのものに限定していない。

【委員B】

色々な事情の方がいるので、お弁当は自由な方が良いと思う。

【委員C】

成果指標1番目は来館・相談件数、2番目は利用者数となっているが、相談するために来館した人を重複してカウントしているということはあるか。

【説明者】

2番目の施策は、様々な事業参加者の総数となっており、事業参加者から相談に繋がるケースもあるため、一部重複している場合もある。

【委員C】

利用者が減少するのは良くないが、相談件数が減るといのは決して悪いことではないと思う。

市が子育てについて、一生懸命やっているけれど、どれだけ多くの人に伝わっているか、市民の受け止め方・反応がよくわからないというのが現状。広報活動の工夫をしていると思うが、もう少し工夫をしながら、人事を尽くすしかないのでは。

他の市町村と比べ、千歳市の特色として胸を張って言える事業を教えてください。

【説明者】

いままでは電話・来館しての相談を行ってきたが、そういうことをできない人が増えている。

その様な現状があることからメール相談に力を入れている。今後も目に見えないところに目を向ける様な取り組みを行っていきたい。

一つの目玉となる取組ではなく、親に温かい気持ちで対応することが大事で、小さな取り組みの積み重ねだと考えており、地域の人たちと力を合わせる事が重要である。

胆振東部の震災の時に感じたことは、センターの力だけではなく、地域の人たちの協力も必要であるということであり、その方達への情報発信に力を入れる必要があると考えている。

【委員C】

こどもは宝なので、ぜひ頑張ってもらいたい。こどもをきちんと評価できない人たちに負けてはいけない。

【委員D】

コロナの影響はどうか。現状の取組は来館を促すことが主になっているが、来館できない期間の取組をどのように行ったのか確認したい。

【説明者】

ブログ等での情報発信や予定した講座をZoomの機能を使ってオンラインで開催し、顔を見合わせる環境づくりを行った。Zoomについては、今後の事業についても利用を検討していきたい。

【委員B】

ママサポートについて、利用実績が一年で10家庭となっているが、千歳市は転入者が6,000人と多いまちなので、10家庭というのは少ないのではないかと。更にPRすべきと考える。

【委員E】

ママサポートについて、事例を教えてください。

【説明者】

母子保健課から連絡があり繋がるケースが多い。今後も他課との連携を行っていききたい。

【委員F】

市民ニーズの把握について、相談件数だけでなく、相談の内容によりカテゴリー分けをした時の比較分析は行っているか。ニーズに合わせた取組を行うには分析が必要だと思う。

【説明者】

そこまで詳細な分析は行っていないが、毎年傾向はそれほど変わらないと考えている。

【委員F】

ニーズを分析しながら行うと良いのではと思うので、ぜひ頑張ってください。

【委員A】

LINEを活用した相談は行わないのか。メールより市民にとって使いやすいツールだと思う。

【説明者】

現在は、問い合わせフォーマットを活用しており、基本的には電話での相談に繋がるケースが多い。メール相談も始めたばかりなので、今後は利用者の利便性向上を考えていきたい。

【委員A】

最初から個人情報の入力が必要だと、敷居が高くなってしまう。入口は敷居を低くし、直接相談が必要であれば個人情報を入手するという方が良いのではないかと。

【委員F】

個人的にAIのチャットボットの導入を考えている。実情を隠して相談したいという需要は高く、ニーズ分析にも使える。

【説明者】

LINEの導入については、相談に対応しきれぬのか、さらに人数が必要になるのではないかと不安はある。

【アドバイザー】

子育てサークルが解散するときに、過去に自分が経験した人、相談した人がLINEのオペレーターになってもらうという取組を、市民協働事業として行うことも可能ではないかと。

【委員A】

北海道の他市町村と比較して、千歳市の取組状況はどうか。

【説明者】

飛び抜けた取組をしている訳ではないが、穴になる部分はないと考えている。一つ胸を張って言える取り組みがあるというわけではないが、関係者同士で切れ目なく繋ぐという意識が高い。

【委員A】

他市町村の状況把握、比較をし、情報分析を行うべきである。

評価

【アドバイザー】

他市町村よりも優れた取組をしており、特色もあるので、もっとPRすべきではないかと思う。道内でも先駆的な取り組みをしている。

【委員C】

先進的な取り組みをしているのに、何故そんなに自慢できないのかと感じた。実際に担当している職員と「子育てするなら千歳市」というスローガンが掛け離れている。もっと自信を持つべきだ。

【委員D】

取組があまりにも多すぎるという現状がある。
また、地域の人たちへの働きかけが必要である。

【委員C】

地域を巻き込む・一体的な方法（協働）を生み出してほしい。

【委員E】

地域とのつながり、他部署との連携について、評価表の中でもっと記載すべき。

【委員B】

「孤立することなく、安心して」を実現するための地域との連携を記載することにより、市民も受け止めやすくなるのではないかと。

【アドバイザー】

方向性としては、施策内容、実施コストともに「維持」でよいか。
意義なし

(2) 学習機会の充実

ヒアリング

【委員A】

取組の方向に記載している「市民ニーズ」は、どの様に把握しているのか。

【説明者】

受講者にアンケートを取っており、それを基に次回の講座に反映している。

【委員A】

受講者以外の把握は、どの様に行っているか。

【説明者】

どのような種類を希望しているかというアンケートを取り、上位のものを採用している。職員の方で情報収集を行い、アンケートを実施する講座に関連しないテーマについてもアンケートの回答項目に加えている。また、職員が社会の状況を踏まえ、テーマの設定を行うこともある。

【委員A】

学習方法やセミナー等決まった枠組みではない大枠の部分のニーズ把握は行っているのか。

【説明者】

基本的に時間が限られているので講義形式になるが、ワークショップ形式のものもある。

【委員C】

市民一人ひとりが生き生きと活動するために、なぜ学習機会の充実が必要だと考えているか、その根拠は何か。

市民アンケートでも満足度は高いが重要度は低い。参加している人も同じメンバーばかりだ。

【説明者】

重要度が低いことについてだが、生涯学習が必要な理由は、社会の変化が以前よりも急速に進んでいるということである。変化が激しい一方で、人生は長くなってきている。時代の変化は激しく、学びの場が必要と考えている。

また、必要性を十分に伝えきれていないということは認識している。

重要度が低いことについては、重要度が満足度よりも低いとは考えていない。他の項目と比べると低くなっているが、単体で見れば低くはないと考えている。

生涯学習というのは、日々の生活の安定があって始めて求められる分野であり、基本的な生活が安定して初めて重要だと感じる部門である。

【委員C】

自分が年を取ったときに、活躍できる場があることが最大の喜び、生きがいになると考えている。市内の人たちに活躍できる場を用意してほしい。家に閉じこもっている人はたくさんいる。

自分自らが学ぶだけでなく、活躍の場を用意することも前向きに考えてほしい。

【説明者】

出前講座などを実施しているが、次の計画で盛り込みたいのがリーダー養成した後の活用・活躍の場である。他の施策になるが、千歳学出前講座などでそういう場をコーディネートしたい。

【委員A】

違う施策だという認識があるのであれば、広く捉えたうえで説明があった方がよい。

【説明者】

施策としては別である。

【委員A】

施策は別だとしても、施策ごとに切り分けるのではなく、学習機会を広く捉えた上での教育委員会としての説明があるべきだ。そういう事が繋がってこない、結局今と同じことをやっていくことになる。行政として何をやっていきたいのかというのが見えない。

【アドバイザー】

生涯学習を推進する目的は、国が記載しており明確だ。しかし、身の回りに様々な課題があって、他にも様々な学習の機会がある。この施策は何を中心としたものが、そこを整理するべきである。

【説明者】

成人期、高齢期の学習のニーズを提供する施策である。

【委員C】

何を行ったかだけでなく、広い視点での取り組みについて説明がないという印象を受けた。

【委員D】

何を勉強したいのか、これだから来てほしいというのが伝わってこない。

【委員A】

教える側の欠点は、相手が学んでくれるものだと考えていることだ。なかなか相手は学んでくれない。一番効果的なのは、教えられる側の人に授業をしてもらうこと。教える側が教えてもらう側の立場になってもらうことだと考えている。

教えると学ぶ時の何倍も労力が掛かり、それが一番の学びになる。それが教育業界のトレンドだ。受け身で聞いているだけよりも効果がある。

【説明者】

発表の機会は、高星大学や大学院ですで行っている。短期講座でもそういったことをできないのか考えており、その為の職員の資質の向上も必要。退職校長や社会教育主事などがコーディネート機能を持っている。

【委員D】

修学旅行や地域探索などは、受講者自らが行先などを決めるのか。

【説明者】

自治会、実行委員会などを設けて、自分たちで決めている。

【委員E】

若返り学園はリピーターが多いと思うが、リピート率はどの程度か。

【説明者】

新規参加者は、令和元年度が15%、H30年度が20%となっており、約8割がリピーターである。

【委員E】

新規参加者の周知方法はどのようにしているか。

【説明者】

広報ちとせ、ポスター、ちゃんとや会員の口コミなど。

【委員B】

参加者は時間に余裕がある富裕層という印象を受けている。

お金がなくても「市民農園」のような取組があると、高齢者の方がもっと参加するのではないかと。旅行だとどうしてもお金が掛かってしまう。生きがいに繋がる、高齢者の心と体の健康を築くための取組を期待したい。

【説明者】

社会福祉協議会と連携してボランティアのメニューから体験をしてもらう取組をしている。

【委員B】

参加するモチベーションを上げるために、参加すると健康ポイントが貯まるような取組にしてはどうか。

【委員 E】

65 歳以上であればポイントが貯まる仕組みはある。

【委員 F】

高星大学の申し込みは 2 年に 1 回か

【説明者】

2 年に 1 回である。需要は多いと感じている。

【委員 A】

希望しても入れない人はいるのか。

【説明者】

高星大学は定員が 50 名であり、入れなかった人は一桁。
若返り学園については、定員を設けていない。

【委員 A】

その程度の人数であれば、全員入れてあげればよいのではないか。

【説明者】

修学旅行のバスの定員の問題もあり、数字を統一しなければ、年によりばらつきもでてくるため、定員は決めておく必要がある。

【委員 C】

学習の機会を増やすことを考えているのか。

【説明者】

他課でも講座などの取組をしており、それをまとめたいと考えている。市民にもわかりやすい仕組みを作りたいと考えている。

【委員 A】

受講した部分を教育委員会が認定する、単位制度のようなものがあっても良いのではないか。広域的な取り組みがあってもよい。

【説明者】

次期計画に向けた取組について、検討していきたい。

【アドバイザー】

何を学んだかだけでなく、何が出来るようになるのかというのが重要。
施策の位置付けをどうするかが重要である。

評価

【委員 D】

子育ての施策と連動することはできないのか。高齢者が相談の場で活躍できると考える。

【委員 E】

リーダーが乱立している。ぜひ計画を立てる段階で連携し、整理してほしい。

【委員 C】

団体等の横の連携が薄い。なかなか新しい芽が出ない。若者が講師を務めると面白い。

【委員 A】

大人が枠組みだけを作り、若者にやってもらえば面白い。若者にとっても良い機会だ。

【委員 E】

高齢者の需要はかなりある。逆に高齢者が若者に教える場というのもあってもよい。

【委員 C】

今後の方向性については、コロナの影響を考えると緊急性が高いとは言い難い。

【委員 A】

方向性については、施策内容・実施コストともに「維持」で良いと考える。

令和元年度 施策評価表 令和2年度 評価実施

施策

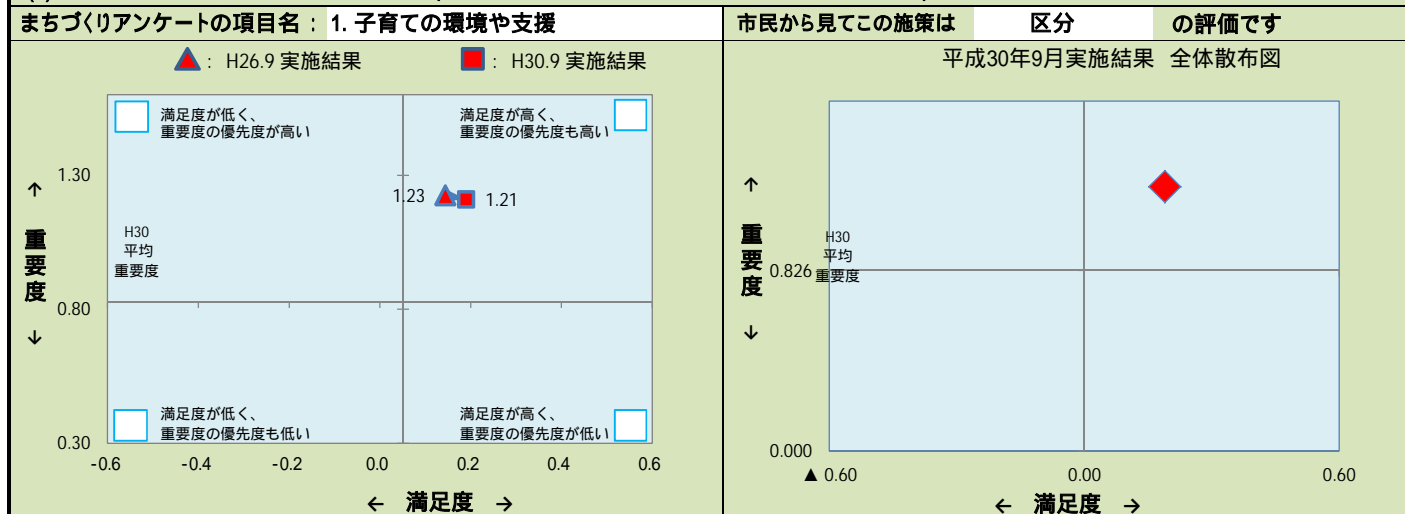
基本目標	あったかみのある地域福祉のまち	展開方針	子育て支援の充実	施策番号
施策CD	100630	施策名	地域子育て支援の充実	22
担当課	こども福祉部子育て総合支援センター		評価者	こども福祉部長 上野 美晴
関係課(組織順)				

1 施策の意図及び現状分析

目指すこと 子育て家庭が、孤立することなく安心して子育てができるよう、子育て支援にかかわる各関係機関や市民団体との連携を促進し、地域全体で支える子育て支援の充実を図ります。

(1) 取組の方向	実施状況	該当する事務事業	令和元年度取組概要	備考
1 子育て支援センター(児童館型8か所を含む)を拠点として、子育ての相談や親子同士の交流などの取組を進めます。	実施中	つどいの広場運営事業 子育てコンシェルジュ事業	・ちとせっこセンターのつどいの広場を市民協働団体(link~つなく)に委託し、子育て中親の親子が気軽に相談等できる場を提供した。 ・ちとせ子育てコンシェルジュを4名任用し、子育て相談に応じるとともに、希望者の家庭に定期的に訪問し支援した。	
2 利用者のニーズの変化に対応し、各種の子育て支援事業の取組の充実を図ります。	実施中	地域子育て支援センター運営事業	・子育てを直接サポートするとともに子育て中の親子の交流を深めるための事業を実施した。	
3				
4				
5				
6				

(2) 千歳市民まちづくりアンケート調査結果(千歳市での暮らしについての「満足度」と「重要度」)



アンケート結果の比較分析

市民の子育てに関する環境や支援に対しての意識は高く、重要度は前回の調査結果とほぼ同じ結果となっているが、満足度は上がっており、これまでの施策が評価されたものと考えられる。今後も「子育てするなら千歳市」をキャッチフレーズに展開する重要施策の一つとして、事業内容の充実に努める。

(3) 施策分野の現状と課題

現状と課題
 現状・子育て総合支援センター(ちとせっこセンター)、北新子育て支援センター(げんきっこセンター)、アリス子育て支援センター及び児童館8か所に“地域子育て支援拠点”を開設し、自由に利用できるつどいの広場の他、子育てに関連した講座も数多く行い、多くの子育て世帯に利用していただいている。
 (課題)出生数の減少と就業する女性の増加に伴い、子育て支援センター利用者数が減少傾向にある。一方で、転入者の多い地域柄、センターのことを知らない方も多数存在することから、必要とする方に情報を届けると共に、初めての方でも訪れやすいきっかけや雰囲気づくりを工夫する必要がある。

2 成果指標の達成状況	「前年度との比較」 H29実績値とH30実績(見込)値との比較 :よくなった、 :維持、×:悪くなった、 :比較ができない	「R2目標達成見込」 :目標達成に向け順調に推移、 :目標達成が遅れる可能性有、 ×:目標達成は難しい
--------------------	---	--

成果指標	指標名	指標の内容	単位	基準値	H27 現状値	R2 目標値	実績(見込)値					前年度 との比較	R2目標 達成見込
							H27	H28	H29	H30	R1		
1	地域子育て支援センターにおける子育て相談件数	地域子育て支援センターにおける来館・電話・メール等による子育て相談件数	件	836	458	500	1,329	1,874	2,292	2,056	1,519	×	
	成果指標1の推移												
2	地域子育て支援センターにおける子育て支援事業利用者数	地域子育て支援センターにおいて実施する各種子育て支援事業の延べ利用者数	人	12,029	14,223	16,000	12,470	13,816	13,227	11,874	12,870		
	成果指標2の推移												
3	地域子育て支援センター利用者数	地域子育て支援センターの延べ利用者数	人	33,120	60,589	70,000	84,011	83,263	73,170	71,112	62,127		
	成果指標3の推移												
4													
5													
参考指標	ちとせ子育てコンシェルジュが対応した子育て相談件数	ちとせ子育てコンシェルジュが対応した子育て相談・情報提供の件数	件				607	1,211	1,697	1,540	1,069		
	参考指標の推移												

3 施策を構成する事務事業の評価	「種類」事務事業の種類
	・自主事業：市民・団体等に対し市が独自に実施する事業 ・施設管理事業：市の施設、道路、公園、河川等の維持管理事業 ・経常的事務：法令等による義務的事務、内部管理事務、市有地等管理事務 ・ハード事業：市の施設や道路の建設等、社会資本整備事業 ・法定受託事務：地方自治法に定められた法定受託事務（本来は国・北海道が行う事務を市が請け負っている事務）

番号	事務事業名 担当課係	種類	事務事業の内容	施策目標を達成するための取組			事業費(千円)	
				現状と課題、施策目標達成に向けた改善案等	施策における優先度貢献度	今後の方向性	上段：直接経費 中段：人件費 下段：合計	
1	つどいの広場運営事業	自主事業	・気軽に利用しやすい環境作りを行い子育て不安や悩みの相談、子育て情報の提供を実施 ・遊び等をテーマとした親子教室の実施	・子育ての孤立感や負担感を軽減し、「子育てが楽しい」と感じることのできるきめ細やかな支援を行っている。全体の利用者数は減ってはきているが、利用者のニーズをひろい、事業の更なる充実を図る。	高い	現状のまま継続	R1 決算	7,405
	R2 予算						0	
2	地域子育て支援センター運営事業	自主事業	・子育てを直接サポートする ・人との交流を深めるための事業 ・子育て活動団体をサポートする事業 ・子育て支援基盤づくりのための事業	・市内3か所の一般型子育て支援センターに加え、H27年度より8か所の児童館連携型子育て支援センターを展開する。出生数の減少と社会経済情勢の変化や女性の就業率の高まりにより、支援センター来館人数は減少。今後、より一層の周知を図り、利用の増加を図る。	高い	現状のまま継続	R1 決算	10,546
	R2 予算						4,124	
3	子育て総合支援センター施設管理事業	施設管理事業	・子育て総合支援センター(ちとせっこセンター)及び北新子育て支援センター(げんきっこセンター)の維持管理	・さまざまな機能を複合的に持つ千歳市全体の子育て支援を支える拠点施設として、各種支援事業を実施する。	高い	現状のまま継続	R1 決算	12,659
	R2 予算						2,948	
4	子育てコンシェルジュ事業	自主事業	・子育て支援センターに「子育てコンシェルジュ」を配置し、子育てに関する相談や教育・保育施設の提供など、子育て世代を支援する	・来館・電話相談などで子育てに関する相談や保育施設の提供を行ったり、転入間もない家庭や様々な要因により子育て施設に出向くことのできない家庭を訪問し、子育て世代をサポートしている。更に周知を図り、地域や関係機関と情報を共有しながら、必要な方の利用に繋げる	高い	現状のまま継続	R1 決算	533
	R2 予算						0	
5							R1 決算	533
							R2 予算	682
6							R1 決算	0
							R2 予算	0
7							R1 決算	0
							R2 予算	0
8							R1 決算	0
							R2 予算	0
9							R1 決算	0
							R2 予算	0
10							R1 決算	0
							R2 予算	0

事業費	R1決算額	合計(直接経費+人件費)	38,215 千円	直接経費	31,143 千円	人件費	7,072 千円	
		市民一人当たりコスト	393 円					
	R2予算額	合計(直接経費のみ)	34,976 千円	34,976 千円				
		市民一人当たりコスト	360 円					

4 施策の評価

<p>「事業構成の妥当性」</p> <p>A:効果的な事業構成である(現状のまま継続する)。 B:おおむね効果的な事業構成である(一部見直し等の余地がある)。 C:あまり効果的な事業構成ではない(見直し等の余地が大きい)。</p>	<p>「施策の成果・進捗状況」</p> <p>A:十分な成果が得られている(進捗状況は順調である)。 B:おおむね成果が得られている(進捗状況はおおむね順調である)。 C:期待した成果が得られていない(進捗状況は遅れている)。</p>	<p>「施策内容の方向性」</p> <p>(施策目標達成のため) 拡充:事務事業内容を拡大・充実させる。 維持:事務事業内容の水準を維持する。 縮小:事務事業内容を縮小する。</p>	<p>「実施コスト(=予算、人件費)の方向性」</p> <p>(施策目標達成のため) 重点化:事務事業のコストの重点化を図る。 維持:事務事業のコストは現状を維持する。 効率化:事務事業のコストを抑制する。</p>
---	---	---	---

(1) 施策内容の評価(事業構成の妥当性と施策の成果・進捗状況)

<p>事業構成の妥当性</p> <div style="border: 1px solid black; text-align: center; width: 40px; height: 40px; margin: 10px auto;">A</div>	<p>評価理由・問題点</p> <p>当市は転出転入者が多く、核家族化の進行に伴う家族形態の変化などにより、身近に子育ての協力を頼んだり、悩みの相談や情報交換が行える相手がないなど、子育ての不安や負担を抱え込み孤立する親が増えている。「安心して子育てし、子育ては楽しい」と感じる事の出来るようなきめ細やかな家庭への育児支援が重要であり、直接的にサポートすることができるセンターは大きな役割を果たしている。</p> <p>また、子育て支援センターを10か所開設したことにより、広域的に子育て支援を展開できるようになり、子育て家庭へのサポートが充実したところである。今後は、子育て支援センターのことを知らない家庭もあることから、妊娠期から視野に入れ、一層の周知を図っていく。</p>
<p>施策の成果・進捗状況</p> <div style="border: 1px solid black; text-align: center; width: 40px; height: 40px; margin: 10px auto;">A</div>	

(2) 総合評価(上記の評価結果を踏まえた部次長評価)

<p>施策内容の方向性</p> <div style="border: 1px solid black; text-align: center; width: 40px; height: 40px; margin: 10px auto;">維持</div>	<p>総合評価に係る評価理由・所見など</p> <p>平成26年度から市の定住促進策の一つとして「子育てするなら、千歳市」をキャッチフレーズに地域における子育て支援の充実に向けて取組みを進めており、平成27年3月に策定した「第1期千歳市子ども・子育て支援事業計画」において位置付けた施策である。</p> <p>事業内容としては「ちとせっこセンター」及び「げんきっこセンター」の2か所を子育て支援中核施設と位置付け、これまでの3センターに交通の便などにより来ることができない家庭への対応として、市内8か所にある児童館において児童館連携型子育て支援センター事業を展開し、「つどいの広場」や「子育て相談」、ちとせっこセンターと連携した「子育て講座」などを実施している。また、「ちとせ子育てコンシェルジュ」を2つの子育て支援中核施設に配置し、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等の情報提供や様々な要因により子育て支援中核施設に出向くことができない子育て家庭を訪問し、教育・保育施設や子育て支援サービスの利用等につなげる「ままサポート(訪問型子育て支援)」を実施している。</p> <p>出生数の減少と女性就業者数の増加の影響を受け、利用者が減少傾向に。依然として子育て支援施策としては重要なポジションを占めている施策であり、今後も時代のニーズに合わせながら継続していく必要がある。</p>
<p>実施コストの方向性</p> <div style="border: 1px solid black; text-align: center; width: 40px; height: 40px; margin: 10px auto;">維持</div>	

市民行政アセス(市民評価会議)

<p>(1) 総評</p>	
<p>(2) 総合評価</p> <p>施策内容の方向性</p> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 10px auto;"></div>	<p>理由・意見</p>
<p>実施コストの方向性</p> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 10px auto;"></div>	

令和元年度 施策評価表 令和2年度 評価実施

施策

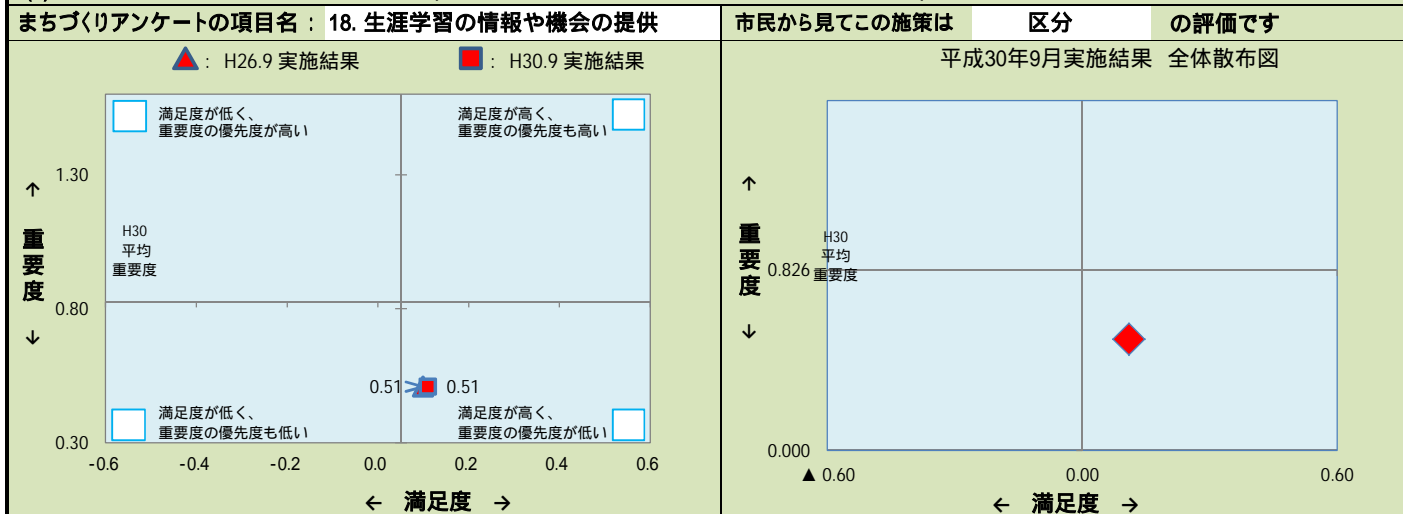
基本目標	学びの意欲と豊かな心を育む教育文化のまち	展開方針	社会教育の充実	施策番号
施策CD	400510	施策名	学習機会の充実	83
担当課	教育部生涯学習課	評価者	教育部長 千田 義彦	
関係課(組織順)				

1 施策の意図及び現状分析

目指すこと 社会の変化や課題などに対応した様々な学習機会を充実します。

(1) 取組の方向	実施状況	該当する事務事業	令和元年度取組概要	備考
1 地域課題や国際問題など、市民ニーズに応じた学習機会を充実します。	実施中	生涯学習まちづくり推進講座開催事業	・市民教養セミナー(5回、1回中止)を実施 ・英会話教室(6回×2)を市民協働プロジェクト事業で実施 ・英語暗唱コンテストを実施	
2 生きがいづくりや地域で活躍する人材づくりのため、高齢者の学習機会を充実します。	実施中	高齢者学級開催事業	・千歳高星大学(50時間)を実施 ・千歳高星大学大学院(40時間)を実施 ・千歳市若返り学園(学園行事15回ほか)を実施	
3				
4				
5				
6				

(2) 千歳市民まちづくりアンケート調査結果(千歳市での暮らしについての「満足度」と「重要度」)



アンケート結果の比較分析

前回調査と比較して、満足度・重要度ともにほぼ横ばいである。近年は、教育委員会をはじめ様々な機関・団体から生涯学習の機会が提供されていることで、満足度など一定程度評価されている。

(3) 施策分野の現状と課題

現状と課題

高齢化が進んでいる中、市民生活の向上に向けた学習機会や高齢期を生きがいのある人生として送るための学習機会を提供している。今後も高齢化が進み、社会状況が激しく変化中、だれもが生涯の様々なステージで必要となる能力を身につけ、市民一人ひとりが生涯にわたって活躍していくことがますます重要になっている。市民一人ひとりが豊かな人生を送るため、また、市民力向上のため、どの世代にも適応する生涯学習のニーズや生活課題に応じた学びの機会を提供する必要がある。

2 成果指標の達成状況	「前年度との比較」 H30実績値とR1実績(見込)値との比較	「R2目標達成見込」
	:よくなった、 :維持、×:悪くなった、 :比較ができない	:目標達成に向け順調に推移、 :目標達成が遅れる可能性有、×:目標達成は難しい

成果指標	指標名	指標の内容	単位	基準値	H27 現状値	R2 目標値	実績(見込)値					前年度 との比較	R2目標 達成見込
							H27	H28	H29	H30	R1		
1	市民が問題解決のために取り組んだ学習内容の理解度	教育委員会主催の市民セミナー事業のアンケート結果で、よく理解できたと答えた人の割合	%	71.2	82.5	80	75.7	88.2	89.4	85.0	80.7		
	<p>成果指標1の推移</p>												
2	高齢者の学習意欲と地域参画意欲の向上度	教育委員会主催の高齢者対象事業のアンケート結果で、今後の活動に大いに役立つと答えた人の割合	%	61.5	63.2	70	63.7	74.9	63.3	61.9	65.4		
	<p>成果指標2の推移</p>												
3													
4													
5													
参考指標													

3 施策を構成する事務事業の評価	「種類」事務事業の種類
	・自主事業：市民・団体等に対し市が独自に実施する事業 ・施設管理事業：市の施設、道路、公園、河川等の維持管理事業 ・経常的事務：法令等による義務的事務、内部管理事務、市有地等管理事務 ・ハード事業：市の施設や道路の建設等、社会資本整備事業 ・法定受託事務：地方自治法に定められた法定受託事務（本来は国・北海道が行う事務を市が請け負っている事務）

番号	事務事業名 担当課係	種類	事務事業の内容	施策目標を達成するための取組			事業費(千円)	
				現状と課題、施策目標達成に向けた改善案等	施策における優先度貢献度	今後の方向性	上段：直接経費 中段：人件費 下段：合計	
1	社会教育活動支援業務	自主事業	社会教育活動を行う個人や団体に対して団体登録や資料の配布、事業の後援などを行うほか、市民の社会教育活動を支援するための事務や職員の資質向上を図る研修会参加等の経費	専門職員である社会教育主事の配置が1名にとどまっております、市民(個人・団体)へ必要な助言等が行えるよう、職員の資質向上に努める。	高い	現状のまま 継続	R1 決算	89
	R2 予算						1,875 1,964 229 (直接経費のみ)	
2	高齢者学級開催事業	自主事業	高齢者が自ら進んで学習活動や社会的活動を続け、主体的に生きるための生きがいづくりや社会参加を促すものとして「千歳高星大学」「千歳高星大学大学院」「千歳市若返り学園」を実施	高齢者が健康で生きがいを持ち、それぞれの知識や経験を生かして地域活動への参加意欲を高める学習機会の充実を図る。受講者の地域活動への参加を一層促進するため、学習プログラムを工夫し、参加者の主体的な学びをサポートする。	高い	現状のまま 継続	R1 決算	2,259 7,202 9,461
	R2 予算						2,861 (直接経費のみ)	
3	生涯学習まちづくり推進講座開催事業	自主事業	地域的な課題や社会の変化に伴う今日的な課題に関する生涯各期にわたる学習機会の充実と、これらの課題に対応した市民活動やコミュニティ活動の実践を促すための学習機会を提供	社会の変化が一層激しくなることが想定される中、市民一人ひとりが生涯にわたって学び続け、変化の激しい社会を生き抜く力を身につけることができるよう、市民ニーズや現代的・社会的課題にも着目し、人生を豊かに生きていくことができる学習機会の充実を図る。	高い	現状のまま 継続	R1 決算	788 2,656 3,444
	R2 予算						634 (直接経費のみ)	
4	ユネスコ協会活動支援事業	自主事業	千歳ユネスコ協会事務局を運営、チャリティーパーティーや書きそんじハガキの収集等を通じて得た募金をユネスコ世界寺子屋運動や千歳市奨学基金へ寄附、ユネスコ活動の普及・推進を図る	会員相互及び事務局との連携により、目的に沿った活動がなされている。会員の高齢化などの課題はあるが、持続的な活動を行うため、組織の強化と諸活動の活性化を図る。	やや低い	現状のまま 継続	R1 決算	0 2,188 2,188
	R2 予算						0 (直接経費のみ)	
5							R1 決算	0
							R2 予算	0 (直接経費のみ)
6							R1 決算	0
							R2 予算	0 (直接経費のみ)
7							R1 決算	0
							R2 予算	0 (直接経費のみ)
8							R1 決算	0
							R2 予算	0 (直接経費のみ)
9							R1 決算	0
							R2 予算	0 (直接経費のみ)
10							R1 決算	0
							R2 予算	0 (直接経費のみ)

事業費	R1決算額	合計(直接経費+人件費)	17,057 千円	直接経費	3,136 千円	人件費	13,921 千円
		市民一人当たりコスト	175 円				
	R2予算額	合計(直接経費のみ)	3,724 千円	3,724 千円			
		市民一人当たりコスト	38 円				

4 施策の評価

「事業構成の妥当性」 A: 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)。 B: おおむね効果的な事業構成である(一部見直し等の余地がある)。 C: あまり効果的な事業構成ではない(見直し等の余地が大きい)。	「施策の成果・進捗状況」 A: 十分な成果が得られている(進捗状況は順調である)。 B: おおむね成果が得られている(進捗状況はおおむね順調である)。 C: 期待した成果が得られていない(進捗状況は遅れている)。	「施策内容の方向性」 (施策目標達成のため) 拡充: 事務事業内容を拡大・充実させる。 維持: 事務事業内容の水準を維持する。 縮小: 事務事業内容を縮小する。	「実施コスト(=予算、人件費)の方向性」 (施策目標達成のため) 重点化: 事務事業のコストの重点化を図る。 維持: 事務事業のコストは現状を維持する。 効率化: 事務事業のコストを抑制する。
---	---	---	---

(1) 施策内容の評価(事業構成の妥当性と施策の成果・進捗状況)

<p>事業構成の妥当性</p> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; text-align: center; line-height: 40px;">A</div> <p>施策の成果・進捗状況</p> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; text-align: center; line-height: 40px;">B</div>	<p>評価理由・問題点</p> <p>社会状況が激しく変化中、市民一人ひとりが自己を磨き、豊かな人生を送るため、また、市民力向上のため、生涯の様々なステージで必要となる能力を身につけ、一人ひとりが生涯にわたって活躍していけるよう、生涯学習のニーズや現代的・社会的課題に応じた学習機会を提供する必要があり、事業の継続は必要不可欠である。生涯にわたって学びを進めるためには、対象者の満足度が欠かせないため、高齢者をはじめとする市民全体の生涯学習事業の一環として、わかりやすい内容、人生に役立つ内容など、どの世代にも適応する生涯学習のニーズや生活課題に応じた学びの機会を提供し、地域の教育力向上につながるような事業としていく必要がある。</p>
---	---

(2) 総合評価(上記の評価結果を踏まえた部次長評価)

<p>施策内容の方向性</p> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; text-align: center; line-height: 40px;">維持</div> <p>実施コストの方向性</p> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; text-align: center; line-height: 40px;">維持</div>	<p>総合評価に係る評価理由・所見など</p> <p>社会の変化により生じる生活課題に対応した学習機会を提供することや高齢者への学習機会の提供は、市民生活の向上や市民主体のまちづくり活動に欠かせないものであり、今後も市民ニーズと現代的・社会的課題に応じた学習機会を充実する必要がある。</p>
--	--

市民行政アセス(市民評価会議)

(1) 総評	
(2) 総合評価	理由・意見
<p>施策内容の方向性</p> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto;"></div> <p>実施コストの方向性</p> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto;"></div>	